

教会短信

2007年2月18日

No. 13

牧師 間瀬 善彦

デパートやスーパーに行くとバレンタインのチョコレートを見かけます。バレンタインデーに女性から男性にチョコレートを贈る習慣は、キリスト教に基づいていると思っている人が多いようですが、これは全くの誤解です。チョコレートを贈るのは、日本のある製菓会社が販売を促進するために始めたようです。1960年前後から盛んになり、広がってきました。

聖バレンタインデー（2月14日）というのは、聖バレンティヌスが殉教したことを記念するカトリックの祝日です。バレンタインデーとして、日本のチョコレートを贈る習慣は、古代ローマの祭りで町の娘たちが恋文を書いて箱に入れたことを真似ているようです。

自分の気持ちを伝えたいのであれば、カードにその気持ちを記して交換するだけでも十分だと思います。そのようにしてお互いの気持ちを確認することができたら、チョコレートは必要ないのではないのでしょうか。それに使うお金の半分でも、世界の中で恵まれない人や困っている人のために役立ててもらったら、どんなに素晴らしいでしょう。ホワイトデーも同様です。

聖書にこのようなことが書かれています。「わたし（イエス）の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたし（イエス）にしてくれたことなのである」（マタイ25：40）。「最も小さい者」というのは、社会の中で最も小さい存在として、存在しても、存在していないかのように扱われている人たちのことです。弱い人、差別されている人、貧しい人です。つまり、わたしたちがあえてその存在を認めようとしなければ、認めないままに、気づかないでいる人たちのことです。

わたしたちは毎日何かに追われるように忙しく生活しています。仕事や家事や学校の学びなど、やらなければならないことばかりです。なかなか他人のことまで気にかける余裕がない、というのが本音かもしれません。そのような毎日の中で少しの時間でも、社会の「最も小さい者」の存在を覚え、その人たちのために何かできることをさせていただけるなら、その人の人生は今まで以上に豊かな人生へと変えられることでしょう。

キリストとの出会い

この13年間、家族が次々と精神病になり、社会常識では考えられない厳しい言動に、私は苦しんできました。病気、障害に痛めつけられる一方で、家族のこの苦しさを理解されない絶望の日々を送ってきました。神は私の背中に背負いきれない程の重荷を載せられていると思っていました。

でも一方で、いつも大きな力に守られていました。イエス・キリストとの出会いのきっかけは、ある新聞記事でした。それは、あるクリスチャンの話でした。彼はソーシャル・ワーカーで、28年間、どんなに大変な日々でも、いつも精神病・障害に苦しむ人々と共にあり、彼らを励まし支え続けているという記事でした。私には、そのソーシャル・ワーカー氏（北海道浦河町「浦河べてるの家」と日赤浦河病院のソーシャル・ワーカーの向谷地生良氏）の絶えることのない愛とエネルギーが不思議でありませんでした。その記事を読んで間もなく、私は教会を探し始め、この教会の「教会短信」に出会いました。去年の4月23日、私は初めて教会に来ました。初めての礼拝・・・私の心は安らぎ、もう一人で苦しむことはない安心感で一杯になりました。イエス・キリストの恵み、それは「共にある」ことです。「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたにつながっている、ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができない」（ヨハネ15・4）。私は13年間、絶望と暗闇の中において、神の恵みを沢山受けていながら、神と向き合うこともせず、ただ迷うばかりでした。罪（神への無関心）が深まるにつれ、背中の重荷はより重くなりました。礼拝に出席するようになってからは、イエス様に祈り、心を清められ、「聖書を学ぶ会」で、更なる恵みを受け、自分のために祈るのではなく、他の人々の幸せや恵みを祈るようになりました。

苦しみにあう時、イエス様に祈ります。すると、心の中に命の水が湧いてきます。「互いに愛せよ」（ヨハネ15・12～17）「わたしにつながっていなさい」（ヨハネ15・4）「思い悩むな」（マタイ6・25、ルカ12・22～32）と、イエス様は私に語りかけてくださいます。私にとって、大切な御言葉です。私はこの先、聖書のみことばを、自分の家族や病気・障害に苦しむ人々とその家族に伝えていきたいです。又、私たちの後についてくる沢山の人々に、又、支援活動をしている人々に、イエス・キリストの愛と恵みを伝え、愛に飢えている人々、暗闇の中で愛と光を求める人々に、イエス・キリストの愛、神の福音を伝えていきたいと思います。

【教会歳時記】

教会学校というもの

教会の行事で最も重要なものは「主日礼拝」といわれ、日曜日毎に行われる礼拝である。

キリスト教では、この日から一週間が始まる。従って、日曜は週末ではなく、週のスタートの日ということになる。

経堂バプテスト教会では、10時30分より礼拝を行い、次いで、11時45分から「教会学校」と称する参会者の「分かち合い」の集いを行っている。

教会学校とは何か。当教会が属する日本バプテスト連盟は、「教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の全領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある」と定めている。

これだけを見ると、肩の凝るような難しい議論や、話しをするように思われるだろうが、この教会では、当日の礼拝の中の「今週の聖句、聖書の朗読箇所、牧師の説教（メッセージ）」の中から、自分の感じたこと、自分の人生とか、経験に照らし合わせて話し、意見を交わし、理解できない点を質問したりすることを教会学校と呼んでいる。時には悩みの告白もあるし、体験から来る笑い話も交えて、より深く聖書の内容を理解しようとする会である。

礼拝だけ出席して「さようなら」と帰るより、一言でも話すことにより理解も深まり、心の交流も生まれ、心底から癒されるものである。中には、これこそ本当の心の交わりだと思う人もあると聞く。

こんなことを喋ったら恥ずかしいとか、もっと論理的なことを言わなくては、などと思うことなく、思いのままを話し、質問し、分かち合うところに向上があり、豊かな心も涵養されるものと自負している。

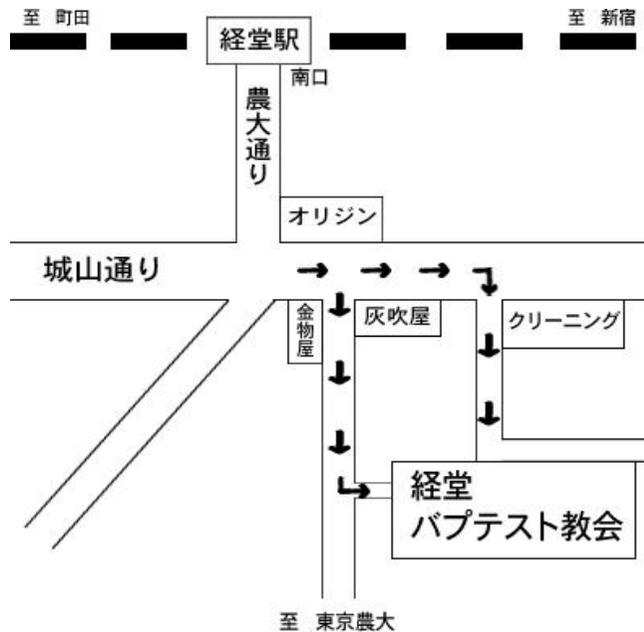
この「教会短信」を読んで下さるあなたも、どうか一度、礼拝に参加され、教会学校で話して頂きたい。

教会の敷居は決して高くはないし、心からの歓迎をもって迎えられと思うし、何よりも、神との接点があると思う。



集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。